

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
EU41C405		自閉症児者の行動理解(Psychology and Applied Behavior Analysis for the Children with Autism Spectrum Disorders)					高度専門科目										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1	教育学研究科	後期		氏名 衛藤裕司 E-mail eto@oita-u.ac.jp 内線 7537											
授業の概要	自閉症スペクトラム障(ASD)児について、1)症状、2)発達段階、3)学校・家庭場面等でよく見られる行動の特徴について、主としてこれまでの心理学的研究の成果から理解し、知識を深めることを目的とする。1つの視点からだけでなく複数の視点(認知処理、応用行動分析、心理学モデル)から、実態把握・分析を行う包括的アセスメントの方法を学び、映像による事例の分析等の協議を通し、適切な指導方法及び配慮(合理的配慮を含む)を考えられるようになることが、この講義の目標である。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 ASDの発達段階別の障害の特徴を説明することができる																	
目標2 ASDの認知的特徴とその表れ方を説明することができる																	
目標3 ASD児者の心理学的理解と指導の関係について説明することができる																	
目標4 ASDの指導方法を(演習的に)使用できる																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 自閉症スペクトラム障害の就学指導(教育的判断)																	
2 幼児期の自閉症スペクトラム障害の特徴と対応																	
3 児童期の自閉症スペクトラム障害の特徴と対応																	
4 青年期の自閉症スペクトラム障害の特徴と対応																	
5 成人期の自閉症スペクトラム障害の特徴と対応																	
6 自閉症スペクトラム障害の認知的特徴1(WISC, DN-CAS, K-ABC)																	
7 自閉症スペクトラム障害の認知的特徴2(サヴァン症候群)																	
8 自閉症スペクトラム障害の特性																	
9 自閉症スペクトラム障害の学習上の特性(心理化の障害, 注意障害, 実行機能障害等)																	
10 自閉症スペクトラム障害の言語の特徴(意味論, 音韻論, 統語論)																	
11 自閉症スペクトラム障害の言語の特徴(語用論)																	
12 自閉症スペクトラム障害の指導技術(課題分析, Prompt & Fading, Shaping)																	
13 自閉症スペクトラム障害の指導技術(逆行連鎖法, シミュレーション課題, 般化課題)																	
14 自閉症スペクトラム障害の問題行動への指導技術(分化強化, Pivotal Response Training)																	
15 自閉症スペクトラム障害の二次障害																	
ラック	A:知識の定着・確認	ディスカッション(話し合い), 事例研究(ケース・メソッド), 相互教授(学び合い)					工夫	その	他の	プリントを配布する。							
ニテ	B:意見の表現・交換																
ンイ	C:応用志向																
グ	D:知識の活用・創造																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配布プリントを事前に読んでくる(15時間)															
	事後学修	課題プリント(15時間)															
教科書	プリントを配布する																
参考書	ローナ・ウイング(1998):自閉症スペクトル親と専門家のガイドブック-.東京書籍. American Psychiatric Association(2013):Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders:DSM-5.Washington D.C.(日本精神神経学会(2014) 高橋三郎・大野裕監訳「DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル」医学書院)他																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	発表	60%															
	レポート	40%															
注意事項	特になし																
備考	特になし																
リンク																	
	URL																